

試行版

いちご一会フローズ
花育てガイド

花と人 いちご一会のおもてなし



夢を感動へ。感動を未来へ。 2022

いちご いちえ	会	とちぎ	国体	いちご いちえ	会	とちぎ	大会
冬季大会			1月24日(月)~30日(日)				10月29日(土)~31日(月)
本大会			10月1日(土)~11日(火)				

目次

花いっぱい運動	・・・・・・・・・・1
いちご一会フラワーズ（推奨花）	・・・・・・・・・・1
栽培スケジュール	・・・・・・・・・・2
栽培に関する用語	・・・・・・・・・・2
播種（種まき）	・・・・・・・・・・3, 4
移植（鉢上げ）	・・・・・・・・・・5～7
定植（プランターや花壇へ植替え）	・・・・・・・・・・8
花を長くきれいに楽しむためのポイント	・・・・・・・・・・9～10
いちご一会フラワーズの育て方	・・・・・・・・・・11～14

花いっぱい運動

いちご一会とちぎ国体本大会・いちご一会とちぎ大会の開催に向けた機運を醸成し、両大会期間中、全国からの来県者をたくさんのおもてなしするため、県民総参加による県民運動「いちご一会運動」の一つとして、花いっぱい運動を全県的に取り組んでいきます。

競技会場だけでなく、競技会場までの沿道や最寄りの駅等に飾るいちご一会フラワーズ（推奨花）をご自宅や学校等で育て、花いっぱいのまちでおもてなししましょう。

いちご一会フラワーズ（推奨花）


マリーゴールド	ベコニア	ペチュニア	ニチニチソウ
			

サルビア	メランポディウム
	

育てやすく、両大会の開催期間中にたくさんのおもてなしを咲かせ、見た人も育てた人も心に残る花6種類を選定しました。

栽培スケジュール

上段に両大会会期に合わせて開花させる栽培スケジュールを、下段に一般的な栽培スケジュールを示しています。(天候や栽培環境・管理状況により前後することがあります。)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
両大会 			播種	移植			
						定植	
			とちぎ国体本大会 2022年10月1日(土)~11日(火)				見頃
			とちぎ大会 2022年10月29日(土)~31日(月)				
一般	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
	播種						
		移植					
			定植				
				見頃			

栽培に関する用語

用語	意味・関連事項等
播種(はしゅ)	種をまくこと。
覆土(ふくど)	種に土をかぶせること。
移植(いしょく)	セルトレイで育てた苗を小さな苗をポリポットに植え替えること。
定植(ていしょく)	ポリポットなどで育てた苗をプランターや花壇等に植え替えること。
摘心(てきしん)	先端の新芽の部分を摘み取り、脇芽の発育を促すこと。花の数を増やし、ボリュームのある姿に育てることができる。
切り戻し(きりもどし)	伸びすぎた株を半分程度の長さに切りそろえ、形を整えること。脇から新芽が伸びだし、もう一度花を咲かせることができる。
花がら摘み(はながらつみ)	咲き終わった花を摘むこと。種をつくる栄養をとられなくなり、次の花をきれいに咲かせることにつながる。
間引き(まびき)	混みあった状態で発芽した株のうち、小さいものや弱っているものを抜いてよい株を残すこと。
かん水	水を与えること。水やり。
追肥(ついひ)	生育の途中に肥料を施すこと。



播種（種まき）

ここでは、セルトレイを使った育苗方法（セル成型苗）を紹介します。

セルトレイを使うことで、移植時の植え傷みが少なく、生育がうまくいきます。



セルトレイ

1 播種（種まき）の準備

□推奨花の種 □セルトレイ □種まき用土 □ピンセット or 竹串 □霧吹き
□バット（セルトレイが収まる大きさ）

2 播種（種まき）を成功させるポイント

☆植物の発芽に必要なものは水、酸素、温度の3つです。

ポイント1 病原菌を持ち込まないように清潔な用土を使いましょう。

ポイント2 覆土しすぎない。種類によって覆土の量が違います。

ポイント3 乾燥に気を付ける。発芽するまでは絶対に乾かしません。

3 播種（種まき）の手順

① セルトレイに種まき用土をつめ、給水させる。

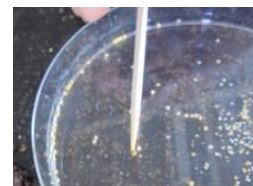
均一につめることが重要！特に外側のセルには、十分用土をつめるようにしましょう。その後、じょうろなどで優しく給水させましょう。

※セルトレイは、用土をつめる前に必要な分だけ切り分けておくと無駄がありません。



② セルに種をまく。

草花の種は、小さいものが多いので、まきにくい場合は、ピンセットを使ったり、ぬらした竹串の先端に種をくっつけてまいたりします。セル1穴に1粒ずつまいていきます。



③ 種の2～3倍の厚さで覆土する。

覆土は種がかくれる程度にうすくしましょう。厚すぎると発芽がそろわないことがあります。

注) ペコニア・パチュニアは、好光性種子※のため覆土しない。

※好光性種子→発芽に光が必要な種子

④ 用土に水を含ませる。

目の細かいじょうろや霧吹き等で種が流れないように注意しながら用土にたっぷり水がいきわたるようにかん水を行います。バット（セルトレイが入る大きさ）が用意できるときは、水を張ったバットの中にセルトレイを浸けて給水させる方法もあります。（底面給水）



ふるいを使うと均等に覆土ができます。



（底面給水）



4 種まき後の管理

発芽するまで

- 直射日光や雨の当たらない場所に置く。
- 水を切らさない。乾燥を防ぎ、適宜給水をする。

発芽してから

- 外部の環境に慣らす。
徐々にかん水量を控え、光に慣らしていく。
- 乾いてからかん水。
乾いてからかん水することで根の成長が促されます。



移植（鉢上げ）

1 移植（鉢上げ）の準備

□セル成型苗

本葉 3～4 枚程度が移植（鉢上げ）の目安。



□ピンセットや先を細く削った割りばし（小さいフォークでも可）



□ポリポット（3号ポット 直径 約9cm）

軽くてやわらかく苗作りがしやすい。

手に入れやすい。



□用土（市販の培養土を使うと便利です）

2 移植（鉢上げ）の手順

① ポリポットに用土をつめる。

かん水したときにウォータースペース※がとれるように用土を9分目ぐらいまでつめます。



※ウォータースペース→かん水した時に水がたまるスペース。1 cm程度

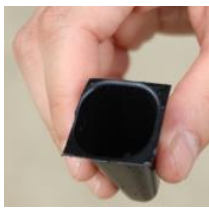
セルトレイ苗が届く前に用土をつめ、準備をしておくと、すぐ移植作業に移ることが出来ます。セルトレイ苗を受け取ったら、なるべく早く移植を行いましょう。もし、セルトレイの状態ですぐに保管する場合は、土が乾燥しないように注意してください。また、一日中、日が当たるような場所や雨風が強くと当たる場所を避けて管理してください。

- ② ピンセットや先のとがった割りばし等でセル成型苗を抜き取り、ポリポットに移植する。

3号ポットの土に指やセルトレイで穴をあけ、そこに差し込むように苗を植え込みます。

セルトレイに水分を含ませ、土を湿らせておくことで、苗がスポッと抜き取りやすくなります。セル苗は土ごと抜き取ります。葉や茎を痛めないように気をつけます。

移植は深すぎたり、浅すぎたりしないように気をつけます。



- ③ 移植（鉢上げ）後は十分にかん水する。

3 移植した苗を丈夫に育てるためのポイント

ポイント1 かん水は「乾いたらたっぷり」を心がける。

用土が常に濡れている状態では、根の成長が悪くなります。
暑い時期は、朝と夕に2度、かん水を行います。

ポイント2 肥料の与えすぎに注意。



苗が根付いたら（移植から10日程度あと）緩効性肥料※を1ポットあたり、0.5g程度与えます。その後は、約1か月おきに同量の緩効性肥料を与えます。肥料は植物から離して置きます。

※緩効性肥料 → 一定期間効果が持続する肥料



ポイント3 光をあてて、風通しを良くする。

となりの葉と触れ合うようになってきたら、1株の日当たり、風通しをよくするためにポットの間隔を広げます。(スペーシング)



ポイント4 暑い時期の用土の乾燥、突然の豪雨に注意。



夏の暑い時期は、用土の乾燥が進み、枯れてしまうことがあります。また、突然の豪雨にさらされると苗が傷んでしまうこともあります。適度に日かげ（午前中日が当たり、午後には日かげになる場所等）ができ、多少、雨風を防げるような場所が育苗にベストです。



病害虫の被害を防ぐために

少量の栽培では、適切な管理をすることである程度、病害虫を防ぐことができます。スペーシングで日当たり・風通しを良くすることも効果的です。

それでも、ナメクジやアブラムシ等が発生することがあります。発生したら、見つけ次第駆除するか、薬剤で防除します。

薬剤の使い方

今回は、顆粒状の薬剤の使い方を紹介します。ビニール手袋等をして（素手は×）薬剤をつかみ均等にポットにふりかけましょう。

薬剤の容器に書いてある分量・回数を守ってください。



定植 (プランター等への植替え)

1 定植の準備 (プランターへ定植する場合)

□プランター □用土 (市販の培養土を使うと便利です) □ポット苗

根がポリポット全体に回ったら定植適期。ポットの底から白い根が見え始めたころ

2 定植の手順

- ① プランターに用土を入れる。

プランターの半分程度の高さまで土を入れます。



- ② 苗をポットから抜き取り、3株をバランスよく配置します。

ポット内に根がまわりすぎている場合は、新しい根の発生を促すため、根鉢を軽くほぐしてから植えつけましょう。



- ③ 苗の土と同じ高さまでプランターに土を入れます。

苗が傾いてぶつからないように株もとを軽く押さえて固定します。



- ④ 植えた後は、底から水が出るくらい、たっぷりと株もとにかん水をします。

- ⑤ 定植後、2週間ぐらいたったら、緩効性肥料を5gほど株と株の間に与えます。

(肥料は表示されている量を守りましょう。多いと肥料やけ※を起すことがあります。)

※肥料が多すぎると根に障害が起こることがある。



- ⑥ 装飾前に、もう一度緩効性肥料を5gほど株と株の間に与えます。

定植後、プランターを直接土の上で管理すると病害虫 (ナメクジ等) に侵されることがあるので、コンクリートやレンガ等の上に置くようにします。また、日当たりと風通しの良い場所で管理します。(できれば、コンクリートやレンガとプランターの間にすのこ等を入れるとよいです。風通しがよくなり、コンクリート等の熱がプランターに伝わりにくくなります。)



きれいな花を長く楽しむためのポイント

ポイント1 かん水

① 乾いてからかん水

植物は水を吸収するために根を伸ばしてきます。常に水がある状態だとしっかりと根が張りません。一定の間隔で乾湿を繰り返すことが、根の生育には必要です。

② たっぴりとかん水

かん水には植物に水を与えるだけでなく、土壌中に新しい空気を送り込む役割もあります。かん水するときは、容器の下から水が染み出てくるぐらいたっぴりと与えましょう。

③ 株もとにかん水

開花している花に直接かん水すると花びらを痛めたり、病気の原因になったりします。

④ 夏場の暑い時期

夏場は、朝と夕の2回水やりを行います。日中の水やりは、水温が高くなり、植物が蒸れるので避けた方が良いでしょう。

ポイント2 追肥

肥料は多すぎると、根に障害が起こります。(肥料やけ) 袋に表示されている量を守りましょう。

効果が持続する緩効性肥料が便利です。



ポイント3 花がら摘み

咲き終わって枯れた（老化した）花は花がらと呼ばれ、残しておくとは病気の発生源になったり、種がついて、花つきが悪くなったりします。そのため、花がら摘みを行うことで長期間、花を楽しめます。



ポイント4 切り戻し

ペチュニアは茎を伸ばしながら、先に先に花をつけていく性質があります。そのため、生長とともに茎が伸びて、草姿が乱れてしまいます。そこで、切り戻しが必要になります。株の半分くらいのところで葉や芽が残るようにはさみで切り取ります。切り戻し直後は寂しく感じますが、一斉にわき芽が生育し、次の開花がそろいます。



ポイント5 摘心

ニチニチソウは、本葉が 8 枚程度になったときに新芽をはさみで切り取ります。摘心することでわき芽の生長が促され、ボリュームのある姿になります。花をつける数も増えます。



いちご一会フラワーズの育て方

いちご一会とちぎ国体本大会・とちぎ大会の期間（10月1日～10月31日）に開花・見頃を合わせた「いちご一会フラワーズ（推奨花）」の育て方を紹介しています。

マリーゴールド



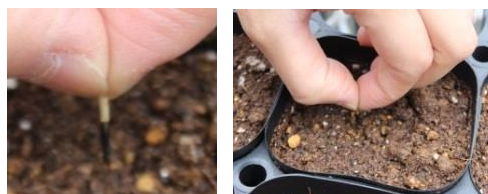
1980年 栃の葉国体 花いっぱい運動 使用花

特徴

鮮やかな黄色やオレンジの花を咲かせます。長期間次々と花をつけます。丈夫で育てやすく、夏の花壇の定番です。

播種

- 7月初旬、3号ポットに2粒ずつまきます。発芽するまで水を切らさないよう気を付けます。発芽した後も土が乾いたら水を与えます。発芽後、2週間程度過ぎたら2つのうち、生育のよい方を残して間引きし、緩効性肥料を0.5gほど株もとから離して与えます。スペーシングも同時期に行うとよいでしょう。



定植

- 8月下旬から9月初旬に、プランターに定植します。3株ずつバランスよく植え付けをします。

管理

- 日当たり、風通しの良い場所で管理し、土の表面が乾いたら株もとにたっぷりと水を与えます。
- 花がら摘みをこまめに行いましょう。
- 定植後は、月に一度程度少量の緩効性肥料を与えましょう。

5月	6月	7月	8月	9月	10月
		播種			
			定植		
					見頃

ペゴニア



特徴

白や赤、ピンクなどの色の花を咲かせます。長期間花をつけ、花壇やコンテナ、寄せ植えなどで広く利用されています。

ニチニチソウ



特徴

白、ピンク、赤など花色が豊富です。乾燥、暑さに強く、初夏から秋まで長期間花を咲かせます。

1980年 栃の薬国体 花いっぱい運動 使用花

播種

- セルトレイに一粒ずつまいていきます。
- ペゴニアの種は、光を好む性質なので覆土はしません。
- ニチニチソウは、種がしっかりと隠れるように覆土します。
- 発芽適温は25℃前後なので、気温が十分に高くなってから種をまきます。
- 発芽までは乾燥させないように注意します。

移植

- 本葉が3~4枚の時期を目安に、ポットなどに丁寧に植え替えます。
- 移植後、10日ほどたったら緩効性肥料を0.5gぐらい与えます。緩効性肥料は植物から離して置きます。
- ニチニチソウは本葉が8枚程度になったときに新芽の部分を摘心すると、脇芽が出て茎の数が増えバランスの良い草姿になります。

摘心の仕方



定植

- 8月下旬から9月初旬に、プランターに定植します。1つのプランターに3株ずつバランスよく植え付けをします。

管理

- 日当たりがよく風通しの良い場所を好みます。過湿を嫌うので乾燥気味に管理し、土の表面が乾いたらたっぷりかん水を行いましょう。
- 真夏の強い日差しに置いておくと葉やけをおこすことがあります。
- 咲き終わった花はこまめに取り除くと、見た目もきれいで病気の発生も抑えられます。(花がら摘み)
- 定植後は、月に一度程度少量の緩効性肥料を与えましょう。

5月	6月	7月	8月	9月	10月
	播種				
		移植			
				定植	見頃

ペチュニア



特徴

花色が豊富で、初夏から秋まで長期間花を咲かせます。朝顔に似た一重咲きのほかにも、八重咲きなど様々な品種があります。

サルビア



特徴

花色は代表的な赤のほか、青などもあります。耐暑性があり、丈夫なので、初夏から秋まで長期間楽しむことができます。

1980年 栃の薬国体 花いっぱい運動 使用花

播種

- セルトレイに一粒ずつまいていきます。
- ペチュニアの種は、光を好む性質なので覆土はしません。
- サルビアは、種が隠れる程度に薄く覆土します。
- 発芽適温は25℃前後なので、気温が十分に高くなってから種をまきます。
- 発芽までは乾燥させないように注意します。

移植

- 本葉が5~6枚の時期を目安にポットに移植します。
- 移植後、10日程度たったら、緩効性肥料を1ポット0.5g程度、植物から離して与えます。

定植

- 8月下旬から9月初旬に、プランターに定植します。1つのプランターに3株ずつバランスよく植え付けをします。

管理

- 日当たりと風通しの良い場所を好みます。日照不足になると花つきが悪くなります。
- 土の表面が乾いたら株もとにたっぷりかん水をします。花卉に水がかかると痛むことがあります。
- 茎が伸びてきたら、切り戻しを行うことで草姿がきれいに保てます。
- 定植後は、月に一度程度少量の緩効性肥料を与えます。
- 咲き終わった花はこまめに取り除くと、見た目もきれいで病気の発生も抑えられます。(花がら摘み)

5月	6月	7月	8月	9月	10月
		播種			
			移植		
				定植	見頃

メランポディウム

特徴

高温多湿に強く、丈夫。明るい小輪の黄色い花を次々と咲かせるので、あまり管理をしなくても美しい株姿を楽しめます。



播種

- セルトレイに一粒ずつまいていきます。種が隠れるようにしっかり覆土します。
- 発芽適温は 20℃～30℃前後です。

移植

- 本葉が 4～6 枚になったらポリポットに移植します。
- 肥料は粒状の緩効性肥料を 1 ポットにつき 0.5 g 程度、植物から離して与えます。

定植

- 本葉が 6～8 枚程度になったら、定植をします。
- 1つのプランターに3株ずつバランスよく植え付けをします。

管理

- 日当たりのよい場所を好みます。
- 小さな花を次々と咲かせるので肥料は大切ですが、過度に肥料をあげすぎると生育不良を起こすので注意します。
- 真夏の高温多湿に強いですが、乾燥が続くと葉先が枯れこむことがあるのでかん水を切らさないようにしましょう。
- 定植後は、月に一度程度少量の緩効性肥料を与えましょう。

5月	6月	7月	8月	9月	10月
		播種			
		移植			
				定植	見頃



県民のみなさま 花いっぱい運動への
御協力をよろしくお願いいたします！

みなさまの育てた、たくさんの花で来
県される方をおもてなししましょう！



【協力校】

栃木県立宇都宮白楊高等学校
栃木県立小山北桜高等学校
栃木県立真岡北陵高等学校
栃木県立矢板高等学校

栃木県立鹿沼南高等学校
栃木県立栃木農業高等学校
栃木県立那須拓陽高等学校

いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会実行委員会事務局
(栃木県国体・障害者スポーツ大会局 総務企画課県民運動担当)

〒320-8501 栃木県宇都宮市塙田1-1-20

TEL 028-623-3518

FAX 028-623-3527

E-mail kokutai-kohokemmin02@pref.tochigi.lg.jp

公式ウェブサイトはこちら

